

この冊子は、本剤の処方箋が発行された患者さんにお渡しください。

レコベル[®]皮下注ペンを使用される方へ

主治医から方法や取り扱いについて説明を受け、この冊子をよく読んでから注射するようにしてください。



心配なことがあった場合には、レコベルの投与を中断し、直ちに主治医・薬剤師に連絡してください。

あなたの投与量は **1日1回** _____ **μg** です。

- ペンの表示窓は _____ 目盛 のところ
- の次の細い線(1目盛回したところ)
- の次の次の細い線(2目盛回したところ) に合わせます。

注射方法の動画は、WEBサイトからご確認ください。



https://www.ferring.co.jp/rekovellev_movie/pen_easy/
視聴により発生する通信料は、自己負担となります。

注射の際に必要なもの
清潔な場所に並べておきましょう。

レコベル及び注射針はあなた専用であり、他の人と共有できません。注射針は主治医より処方されたものをお使いください。

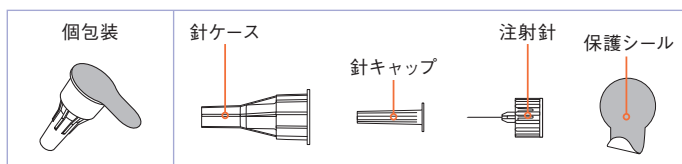


各部の名称

◆レコベル



◆注射針 レコベルに取り付けて使用します。



*薬液：有効成分であるホリトロピन्दルタが入った液体
※レコベルは、ラベルの色によって中に入っている薬液の量が異なります。

自己注射の手順

STEP 1 手を洗う 石鹸で手を洗ってから、注射の準備をはじめます。

STEP 2 注射針を取り付ける



ペンキャップを引っ張って外します。



ペン先端のゴム栓をアルコール綿で拭いて消毒します。
※消毒液が残ったまま注射針を装着すると、注射後に外れなくなることがあるので、ペン先全体を包んで拭かないようにしてください。



注射針の保護シールをはがします。
※注射のたびに新しい注射針を使います。



片手で針ケースを、もう片方の手でペンを持ち、**注射針をまっすぐあて、時計回りに回しながら軽く差し込み**ます。
※きちんとはまっていれば軽く手ごたえを感じます。奥まできつく入れすぎると外れなくなることがあります。

STEP 3 空気抜きをする

新しいペンを使い始める(初回)場合、**空気抜き**を行います。
空気抜きが終わっている場合(2回目以降)は、**STEP4**へ。



針ケースを引っ張って外します。
※針ケースは、注射針を取り外すときにも使用しますので捨てないでください。

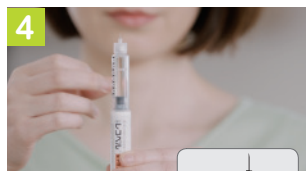


針キャップを引っ張って外します。
※針キャップはそのまま捨ててください。

! 針キャップを外したら、注射針に指や物が触れないように注意してください。



投与量設定ダイヤルを回して、投与量表示窓に**水滴マーク**を表示させます。
※新しいペンで「0」になっていない場合がありますが、問題はないので水滴マークに合わせてください。

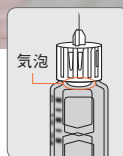


針先を上に向けて、シリンジを指で数回軽くはじき、シリンジ内の気泡を先端に集めます。



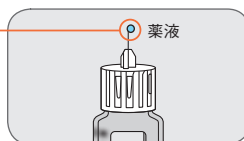
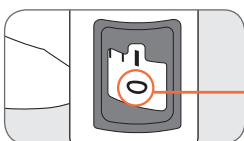
水滴マーク

投与量表示窓



気泡

小さな気泡が上昇しない場合は、影響がないので**5**に進んでください。また、気泡が見当たらなくても同様に行ってください。



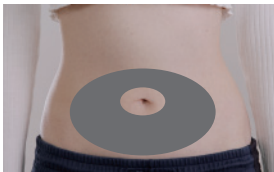
薬液

針先を上に向けたまま(顔から離して)、投与量表示窓に「0」が表示されるまで注入ボタンを押し、針先から**薬液**が出てくることを確認します。

薬液が出てこない場合、出てくるまで空気抜き(**STEP3の3~5**)を繰り返します。

※5回繰り返ししても薬液が出ない場合には、注射針を外して(**STEP7**を参照)新しい注射針を取り付け(**STEP2**を参照)、空気抜きを再度行ってください。

STEP 4 注射部位を決めてアルコール綿で拭く



注射する部位を決めて、その周囲5cmを目安にアルコール綿で拭きます。
※痛み(押すと痛い)や赤みなど異常がみられる部位には注射しないでください。

腹部(グレーで示した範囲)に注射します。注射する部位は毎回変えるようにしてください。

例①:右の腹部に注射した翌日は左の腹部にする、例②:前日や前回の投与部位から少なくとも3cm以上離す

STEP 5 投与量を設定する



投与量設定ダイヤルを回し、指示された投与量に目盛を合わせます。

※ダイヤルは時計回り、反時計回りどちらでも構いません。
投与量は0.33 μ g刻みで設定でき、各数字の間にある1目盛が0.33 μ gに相当します。

投与量の設定中は、注入ボタンを押さないように注意してください。



ダイヤルを回し過ぎた場合は、反対向きに回して正しい投与量を表示させます。

! 指示された投与量にまでダイヤルが回らない場合には、薬剤の残量が不足しています。その場合には、ペンをもう1本使って注射を行います。残量が不足している場合の投与方法については「在宅自己注射説明書」などをご参照ください。

STEP 6 注射する



針ケース、針キャップを引っ張って外します。
※空気抜きを行った場合は外れているので、2に進んでください。

針ケースは、注射針を取り外すときにも使用しますので、捨てないでください。外した針キャップは捨ててください。



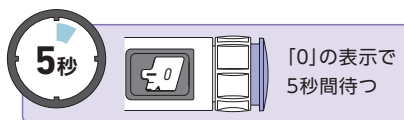
消毒した部分の皮膚を2本の指でつまみます。もう片方の手で投与量表示窓が見えるようにペンを持ち、注射針を根元までまっすぐに刺します。



親指を注入ボタンから離して、注射針をゆっくりとまっすぐ引き抜きます。注射した部位にアルコール綿をしっかり押し当ててください。血が出ている場合は、アルコール綿で押さえておきます。

※シリンジ内に血液の混入が確認されることがあれば、次に注射する際は新しいペンを使用してください。

注射針が見えなくなるまで刺さったら、注入ボタンを親指で押します。投与量表示窓に「0」が表示されたら、押したまま5秒間待ちます。



STEP 7 注射針を廃棄する



注射針を注射針廃棄容器に廃棄します。

針ケースを注射針にかぶせ、反時計回りに回して注射針をペン本体から外します。

※注射針は毎回投与後に取り外してください。

STEP 8 ペンキャップを付ける



保護のため、ペンキャップをしっかりとめめます。注射針を取り付けた状態では、キャップがはまりません。

レコベルは卵巣内の卵子の発育を促す「卵胞刺激ホルモン(FSH)製剤」です*1

- レコベルは卵巣内の卵子の発育を促すFSHというホルモンで、ヒトの細胞を元に作られる薬剤です。
- AMH*2の値と体重から、あなた自身の状態に合わせたレコベルの投与量を設定します。
- 月経開始数日後から1日1回、ご自身で皮下に注射します。

*1: レコベル®皮下注ベン電子化された添付文書

*2: AMHとは、アンチミュラーリアンホルモン(または抗ミュラー管ホルモン)。発育過程にある小さい卵胞(卵子を包む袋状の組織)から分泌されるホルモン。

レコベルの副作用: 卵巣過剰刺激症候群(OHSS)*3

レコベルの働きによって予想以上に多くの卵子(卵胞)が発育し、卵巣が過剰に刺激されてしまうと、卵巣がふくれ上がってお腹や胸に水がたまるなどの症状が起こることがあります。これを**卵巣過剰刺激症候群(OHSS)**と呼び、レコベルで最も注意しなければならない副作用です。

*3: レコベル®皮下注ベン くすりのしおり

OHSSの主な初期症状[レコベル投与開始～投与終了後2週まで特に注意が必要]



下腹部がとても痛い(骨盤痛)



吐き気がする、吐いてしまう



急に体重が増えた



下腹部が張る、不快な感じがする
ウエストがきつくなる



おしっこの量が減った



下痢になった

このような症状がみられた場合には、レコベルの投与を中断し、直ちに主治医・薬剤師に連絡してください。

その他の副作用

- 卵巣が腫れる(卵巣腫大)
症状として、おなかが張る・不快な感じがする、腰痛、下腹部の痛み、便秘などがみられます。
- 骨盤に水が溜まる(骨盤液貯留)
症状として、おなかが張る、腹部の痛みなどがみられます。

これらの症状以外であっても、気になる症状が現れた場合や不安に思われる場合には、主治医・薬剤師に相談してください。

医療機関名

フェリング・ファーマ くすり相談室

レコベルに関するお問い合わせを承ります。

 **0120-093-168** *4 受付時間: 9:00~17:30(土・日・祝日・弊社休日を除く)

*4: 通話料は無料です。携帯電話、PHSからでもご利用いただけます。なお、IP電話からはフリーダイヤルをご利用できない場合があります。



フェリング・ファーマ株式会社